

夕張関連動画一覧

古
↑
時系列順
↓
新

- (1) 東芝日曜劇場 帰郷
(1977年9月4日 北海道放送 49分)

▲1981年10月 北炭夕張新炭鉱災害が発生。

- (2) ラジオドキュメント 坑夫口説き語り まっくらけ
(1987年5月19日 北海道放送 35分)

- (3) NHKスペシャル 地の底への精霊歌 炭鉱に民話の生まれる時
(1993年8月22日 NHK 49分)

- (4) 北海道遺産物語 輝きに包まれた町・空知の炭坑施設群
(2002年11月23日 北海道テレビ放送 3分)

- (5) テレメンタリー2006 自治体倒産 ～夕張は二度殺されたのか～
(2006年11月5日 北海道テレビ放送 26分)

▲2007年3月 夕張市が財政再建団体に指定される。

- (6) FNSドキュメンタリー大賞 石炭奇想曲 夕張、東京、そしてベトナム
(2007年5月31日 北海道文化放送 48分)

- (7) NNNドキュメント'07 鏡の中の夕張 ～マチを追いつめたもの～
(2007年7月2日 札幌テレビ放送 25分)

- (8) D! アンビシャス 熱きどさんこ魂 夕張相撲少年団
夕張相撲の灯りは消させない
(2007年8月5日 札幌テレビ放送 25分)

- (9) ゆうばりんくSpecial
(2007年10月28日 エフエム北海道 53分)

- (10) ザ・ドキュメンタリー 夕張 ～再生に懸ける私たちの夢～
(2008年2月24日 テレビ北海道 25分)

- (11) 月曜ゴールデン特別企画 おふくろ先生のゆうばり診療日記
(2008年2月25日 放送局毎日放送 96分)

- (12) どさんこドキュメント いつか晴れるよ、ゆうばり
～ばあちゃんと相撲少年団～
(2008年5月26日 札幌テレビ放送 26分)

- (13) 時をつなげ! 夕張・激動20年のリレー
(2008年12月31日 北海道放送 48分)

夕張動画紹介

(1) 東芝日曜劇場 帰郷

◇制作年 1977年9月4日

◇放送局 北海道放送

◇時間 49分

炭鉱の町・北海道夕張を舞台に、失われた自らの生き方を故郷の山に問う青年の行動を温かくみつめ、出口のないトンネルに似た現代の青春の中から、成長していく若者の姿を描く。◆追われるように故郷を飛び出し、ボクサーとして頂点をつかむ直前、失明の危機に陥った青年・勇次（佐藤仁哉）。深い絶望の中から、目の見えるうちに、もう一度あの故郷を見ておこうと汽車に乗った。

(2) ラジオドキュメント 坑夫口説き語り まっくらけ

◇制作年 1987年5月19日

◇放送局 北海道放送

◇時間 35分

★日本民間放送連盟賞（第34回報道番組部門優秀）

戦後日本の経済復興を支えてきた炭坑。北海道夕張市の親子三代の炭坑マンが、地底に倒れた仲間たちを思い、ヤマの歴史と体験を詩につづった。

(3) NHKスペシャル 地の底への精霊歌 炭鉱に民話の生まれる時

◇制作年 1993年8月22日

◇放送局 NHK

◇時間 49分

★ギャラクシー賞（第31回優秀賞）

多くの名作ドラマやドキュメンタリーの演出で知られる今野勉が、炭坑夫だった父からきいた不思議な伝承の生まれた背景を探る、自伝的ドキュメンタリー。
◆死んだはずの坑夫が命を落としそうになった坑夫を助けに現れたという物語や、ガス爆発で火傷を追った坑夫の家を見舞い客に化けた狐が訪れ、かさぶたを食べさせて殺してしまったという物語など、炭坑には生死にまつわる不思議な話が多く語り継がれてきた。知人やかつての同級生を訪ね、多くの証言と資料あつめてたどりついたのは、1968年の夕張市平和鉱事故の悲しいエピソードだった。かつての日本を支えた人々の死を語り継ぐ鎮魂歌。

(4) 北海道遺産物語

輝きに包まれた町・空知の炭坑施設群

◇制作年 2002年11月23日
◇放送局 北海道テレビ放送
◇時間 3分

北海道の豊かな自然、生きてきた人々の歴史や文化、生活、産業など、次の世代へ引き継ぎたい有形・無形の財産の中から、道民全体の宝物として選ばれた「北海道遺産」を、ハイビジョンで撮影された美しい映像と共に紹介する。◆かつては炭鉱の町として栄華を誇った夕張。厚さ7mにも及ぶ大露頭を発見したのは北海道炭鉱の父とも呼ばれるライマンの弟子の一人、板（ばん）市太郎だった。かつては不夜城だった商店街の風景は変わり、今は映画の町として地域興しを担っている。ヤマの男たちに熱いラーメンを振舞っていた老女将の証言。

(5) テレメンタリー2006 自治体倒産

～夕張は二度殺されたのか～

(2006年11月5日 北海道テレビ放送 26分)

◇制作年 2006年11月5日
◇放送局 北海道テレビ放送
◇時間 26分

負債総額632億円、全国で14年ぶりに財政再建団体になった北海道夕張市。赤字を大きく膨らませた原因は、赤字隠しの不適切な会計処理だった。なぜそんなことに手を染めたのか。そこには、二度に渡って国策に翻弄されたマチの苦悩があった。◆戦後日本復興期のエネルギー、炭鉱のマチとして栄えたが、国策で次々と閉山。しかし国は閉山処理に冷たく、夕張は財政難に陥っていく。当時の市長は新たなマチづくりの基盤を観光に求めたが、1980年代後半、またしても国策の波に飲み込まれていった。

(6) FNSドキュメンタリー大賞 石炭奇想曲 夕張、東京、そしてベトナム

◇制作年 2007年5月31日

◇放送局 北海道文化放送

◇時間 48分

★日本民間放送連盟賞（第55回報道番組部門最優秀）、
ギャラクシー賞（第45回奨励賞）

夕張の小さな集落、南部地区。17年前、夕張最後の炭鉱が閉山した場所だ。街は閉山後、急速に衰退した。残された人々は助け合いつつましく生きていた。ところが市は財政破綻し、住民生活を壊しかねない再建計画が発表される。日本中で炭鉱の記憶は薄れ「自己責任論」が飛びかっていた。◆一方で日本は過去最高の石炭消費量を記録していた。政府は国策で日本に唯一残った釧路の炭鉱マンをベトナムに派遣し、日本の炭鉱技術をベトナムに伝え、アジアに新しい炭鉱を開発しようと考えていた。釧路の炭鉱は閉山の危機を迎えていた。東京では電気の4分の1を石炭が作り出していた。しかし豊かな街で暮らす人々は、夕張の人々の悲しみを実感することができない。◆夕張、東京、そしてベトナム。一見すると全く関係がないようにみえる3つの場所。しかし「石炭」というキーワードで括り、視点を変えて世の中を見つめ直してみると、それぞれの場所で生きる人々の悲しみ、希望、喜びはつながっていた。

(7) NNNドキュメント '07 鏡の中の夕張 ～マチを追いつめたもの～

◇制作年 2007年7月2日

◇放送局 札幌テレビ放送

◇時間 25分



高齢者率40%の夕張市。理容院に集うのは夕張の発展を支えてきた高齢者ばかり。市の財政破綻をきっかけに、自分たちの人生を振り返る。床屋の鏡に映しだされる自分の姿。元炭鉱マンは「夕張、食うバリ、坂ばかり、ドンとくれば死ぬばかり。上に逆らわなければ明日の仕事も生活もある。金を使うのが美德だった」と振り返る。(略)「依存」がもたらした破綻の姿。それは夕張だけの問題だろうか。鏡には自分のどんな姿が映るのだろうか。

(8) D! アンビシャス 熱きどさんこ魂 夕張相撲少年団 夕張相撲の灯りは消させない

◇制作年 2007年8月5日

◇放送局 札幌テレビ放送

◇時間 25分

★日本民間放送連盟賞

(第56回青少年向け番組優秀)

夕張でおよそ20年もの間、国技・相撲に取り組んできた少年団がある。それが夕張相撲スポーツ少年団。その代表として熱く指導をしているのが蓮間満さん。子供たちには礼儀を大切にすること、そして常に「前へ出る」ということを教えてきた。夕張市の財政破綻。その影響で少年団の室内練習場が入っていた体育館が突然の閉鎖。今では屋外での練習を余儀なくされている。それでも前向きに取り組む蓮間さん。車のライトを照らし、夜遅くまで練習を続ける。わんぱく相撲全国大会に出場した小学4年の佐藤君。見事ベスト16に輝き、夕張相撲を全国へアピールした。中体連北海道大会では団体戦で見事に夕張チームが優勝。全国大会へのキップを勝ち取った。様々な困難な状況を乗り越え、常に「前へ」という強い気持ちで国技相撲に取り組む蓮間さん。蓮間さんの相撲に対する情熱が消えることはない。

(9) ゆうばりんく Special

◇制作年 2007年10月28日

◇放送局 エフエム北海道

◇時間 53分

2007年3月、財政再建団体に認定された夕張市。多数の媒体に取り上げられ、破綻という言葉ばかりがクローズアップされる中、夕張の人々はどのような思いで暮らしているのだろうか。2007年4月から1年間、毎週金曜日のワイド番組内に10分コーナーを作り、丹念な取材を重ね、様々な年代、職業の方の、それでも頑張る夕張市民の本当の声を伝えた。これは10月までの半年間に取り上げた人々や活動のその後を取材し、統廃合などで消えようとしている小学校校歌を収録したものを交えた特別番組である。スタート時の「市は破綻したけれど私たちの暮らしが破綻したわけではない」という声に代表されるように、頑張る市民の本当の声、そして夕張の今を通して、まちづくり、自分たちのまち、そして北海道の未来の姿を考える。

(10) ザ・ドキュメンタリー 夕張 ～再生に懸ける私たちの夢～

◇制作年 2008年2月24日

◇放送局 テレビ北海道

◇時間 25分

かつては炭都と呼ばれ、北海道有数の繁栄を誇った夕張の町も、石炭から石油へと変わる国のエネルギー政策の転換とともに、衰退の一途を辿った。夕張市が抱える借金が353億円。これを18年間かけて返済しなければならず、行政サービスは全国最低の水準へ縮小。人口流出にも歯止めがかからない。

↓

◆一方で夕張に腰をすえ、自分たちの力で町を再生しようという取り組みも数多く生まれている。破産した3セクの元従業員が設立し、地元の特産品を使った商品販売を行なう「夕張酒造」、財政破綻で閉鎖されたものの、市民団体の懸命な活動により再オープンにこぎつけた「夕張市民会館」。ともにこれからの道のりには厳しい現実が待ち構えているが、このような行政に頼らず町を再生しようという「自主自立」の取り組みが注目を集めている。◆番組ではこの2つの活動を通じて、再生に懸ける人たちの思いや財政破綻した町の再生とはどうあるべきかを考え、伝える。

(11) 月曜ゴールデン特別企画 おふくろ先生のゆうばり診療日記

◇制作年 2008.02.25

◇放送局 毎日放送

◇時間 96分

★ギャラクシー賞（第45回奨励賞）

53歳の新米医師がゆうばりで奮闘する人情物語。財政破綻の町を舞台にふれあいの大切さを描く。◆市の財政が破綻した北海道夕張市。高齢化率（総人口に占める65歳以上の割合）が4割を超える状況で、救急車が2台しかないという、夕張市が抱える医療や行政の現状をリアルに捉える。◆2006年・夏。地域医療への夢を抱いたまま先 立ってしまった夫・章一（平田満）の遺志を継ぎ、看護師から女医へと転身した大田原花世（泉ピン子）。大学生の1人息子・和博（佐野泰臣）を東京に残し、夕張の診療所へと赴任することになる。翌日から、花世の戦いが始まる。葛藤する花世に、夕張市の破綻が重くのしかかってくる。住民たちへの想いと、息子への想いが、花世を悩ませて行く。

(12) どさんこドキュメント いつか晴れるよ、ゆうばり ～ばあちゃんと相撲少年団～

◇制作年 2008年5月26日
◇放送局 札幌テレビ放送
◇時間 26分

2007年に突然破綻した夕張市。練習施設の閉鎖などの逆境にあってもめげずに努力を続ける夕張相撲少年団を通して、夕張でひたむきに明るく暮らす人々を追った。◆かつて炭鉱で栄えた夕張には「力自慢」が多く、相撲が盛んだった。相撲スポーツ少年団は24年前に結成され、30人ほどの子供たちがいたが、今は中学生と小学生あわせて10人程度に減少。それでも相撲部屋では、親方が子供達を熱心に指導し、子供達も優勝を目指して一生懸命に練習に励む。しかし、夕張市の破綻をきっかけに「ふれあい相撲場」のあった施設が閉鎖、少年団は存続の危機においこまれた。そんなときでも、少年団は何とか相撲を続ける。

(13) 時をつなげ！ 夕張・激動20年のリレー

◇制作年 2008年12月31日
◇放送局 北海道放送
◇時間 48分

財政破綻で多くの人が町を去った夕張。20年前のソウルオリンピックと並走した全校リレーを再現しようとする取り組みを追う。◆2008年8月、北京オリンピック最終日の男子マラソンと同時スタートで、北海道夕張市清陵町の日抜き通りを、町の人たち六十人がリレーマラソンを走った。企画したのは、町内に住む藤田秀紀さん。

↓

20年前に廃校になった地元の清陵小学校のPTA会長だった。この学校は、1981年に93人の犠牲者を出すガス突出事故を起こし閉山した北炭夕張新鉱のヤマ元だった。閉山後児童数が激減し廃校を余儀なくされたのだ。「夕張の一番厳しい時代を生きてきた子どもたちに何か大きな思い出を残してやりたい」と藤田さんは「ソウルオリンピックに挑戦！全校リレー」を企画した。ひとときのオリンピックに町中が大いに沸いた。あれから20年、夕張は財政破たんし、町の人口は更に減った。「あのメンバーで二十年ぶりに走って夕張を元気にしたい」。しかし、かつての児童は大半が夕張を去り、連絡がついたのはわずかに十数人。開催が危ぶまれる中、藤田さんはある決意を固めた。